

第2回足立区自転車活用推進計画策定委員会

議事要旨

■ 日 時：令和6年1月10日（水） 10時00分～11時30分

■ 場 所：足立区役所8階 災害対策本部室（特別会議室）

■ 出席者：23名（名簿順）

板谷和也委員、松本剛委員、島貫浩委員、廣元勝志委員、大根田文雄委員、山下知晃委員、米澤暁裕委員、久松保文委員、北上達也委員（代理出席：森永貴子委員）、長岡孝浩委員（代理出席：川畑いと美委員）、蝦名正一委員（代理出席：竹尾広幸委員）、関肖委員、吉澤一之委員、本間晃章委員、下川英季委員、村上和生委員、金子孝一郎委員、上野剛委員、真鍋兼委員、吉原治幸委員、茂木聡直委員（代理出席：高橋俊哉委員）、荒井広幸委員（代理出席：加藤鉄也委員）、岩松朋子委員

■ 欠席者：3名

与田伸子委員、坂田光穂委員、鈴木健嗣委員

■ 事務局：5名

須藤純二、長澤友也、松平匡人、高村一幸、前田勝也

■ 議事次第：

1. 開会
2. 足立区都市建設部長挨拶
3. 資料説明
4. 質疑
5. 事務局からのお知らせ
6. 閉会

■ 配付資料：

- 1 第2回自転車活用推進計画策定委員会次第
- 2 足立区自転車活用推進計画策定委員会名簿
- 3 足立区自転車活用推進計画（第2回委員会資料）
- 4 自転車ネットワーク計画編（第2回委員会資料）
- 5 第1回策定委員会での意見の反映状況（席上配布）
- 6 自転車ネットワーク計画 補足資料（席上配布）

■ 議事要旨：

- ・事務局より配付資料を説明後、以下の質疑があった。

○板谷委員：

- ・内容は丁寧にまとめられているため訂正はない。P.4に「進行管理」として「協議会を年に1回開催」とあるため、こちらを評価の実施時期と合わせてPDCAサイクルの箇所にも記載した方が良い。
- ・実際に行った施策の内容に加え、事故件数の減少や放置自転車の減少等の数値を公表すると良い。
- ・アンケート調査結果を見て、区民の意識が高いことに驚いている。「信号を守る」という項目は95%と非常に高いが、実情は6~7割の実感である。マナーを順守している方が回答していると考ええる。

○真鍋委員：

- ・前回の委員会でもご説明したとおり、区民から「自転車の利用マナーが悪い」というご意見を多数いただいております、区のイメージダウンにつながっている。

○上野委員：

- ・警察署の公表資料によると、2018年から2022年では小学生よりも高校生の方が事故数は倍であることから「ルール・マナーの欠如」が影響していると考えている。その点で言うと、「教育」という視点は非常に重要であり、春・秋の交通週間には通学路の信号機のない交差点に私達が立ち、交通安全を図る活動をしている。そこで気になっている点は、「子乗せ自転車のマナー違反」が多く見られることである。交通安全教室は「しつこい」というご意見もある一方で、教育を進めていくことは重要なため、批判を恐れずに実施してほしい。
- ・あるテレビ番組で違法自転車に赤切符と青切符の罰則強化を紹介していた。多様な人間がいるため仕方がないと考えている。警察の仕事は増えてしまい大変かと思うが、徹底して実施してほしい。路上喫煙の取り締まりの強化をしたところ、減少した結果もあるため、ぜひ進めてほしい。
- ・自転車通行帯上に商業車等に停車されると、自転車は車道に出るためさらに危険なため、罰則強化をしてほしい。幅員の広さの問題等はあると思うが、違法停車の取り締まりも必要と考える。

○板谷委員：

- ・道路の積み下ろし問題は道路整備を進めていく上で非常に重要な点であるが、路上に必ずしも停車する必要はない。周辺に駐車施設がないのであればやむを得ないとは思いますが、周辺に路外駐車場等の施設がある場合は、路外駐車場を集配トラック限定で無料にすることも検討していく必要がある。区全域ではなく、地域ごとに課題のある箇所を中心に実施できれば良い。
- ・物理的にカラー舗装上に停車できないようにする必要がある。欧米の中でも特にヨーロッパの事例を見ると、段差をつけて物理的に停車できないようにしている。切符制度が発展している欧米等では、切符を切ることが一般的になっている国もある。「自転車は自動車に近い扱い」であることを認知させるために、警察が取り締まることも1つの手段である。この点は国の施策になると考える。
- ・高校生の事故数が増加している理由は分かりかねるが、近所の学校に通学する小中学生よりも、通学範囲の広がる高校生から自転車利用が増えると考ええる。遅刻等に厳しいこともあるため「急ぐ」という心理的負荷に係ることも影響していると考えられ、マナー問題のみではないように思う。

○岩松委員：

- ・教育による意識を高めるという点は非常に重要である。今年 5 月に小学低学年の事故件数が 5～6 件と多発しており、登下校に慣れてきたタイミングでもある。今後も地域住民に協力いただきながら意識を高めていこうと考えている。「交通マナーの安全確保」という点でお子様を対象として教育をしっかり実施していきたい。

○村上委員：

- ・足立区推進計画 P.94 のマナーについて、やむを得ず歩道を走行し、かつベルを鳴らしながら走行しているのは高齢者が多いように感じている。理由としては「認識不足」大きな要因であり、歩行者優先であることを理解せずに通行していることが明確になっている。高齢者に向けても「歩行者優先」であることの周知を進めてほしい。

○下川委員：

- ・車道の中心部から歩道に向かうと高低差が 10cm 以上あり、この高低差はある年齢を超えると通行しにくくなる。傾斜上でバランスをとりながら左足をつくると、支えきることができず、転倒につながる恐れがある。
- ・高齢者はやっとな自転車で乗っている。道路の傾斜は雨水マスに流すためのものかと思うが、高齢者にとってみるとバランスがとりにくくなり非常に怖い。歩道を歩いていても段差がある。自転車は非常に便利な移動手段ではあるが、歩道状況等が悪いとあきらめざるを得ない。

○真鍋委員：

- ・すぐに対応できるものとそうでないものがあるため、検討していく。

○米澤委員：

- ・自転車推進計画の目標設定では、「区民の健康増進」や「交通不便地域の解消」、「外出機会の促進」が 1 番の目標と考えるが、これは自転車活用のための整備目標であり、「活用してどうなるのか」という点の目標設定がなされていない。こちらの設定の方が重要なのではないかと考える。

○真鍋委員：

- ・重要なお指摘である。整備はどちらかというと活動的指標であり、それに基づく成果の問いかけに関するご意見と考える。ご指摘の点を踏まえて内容を検討していきたい。
- ・足立区は駅前の放置自転車件数が少ない状況であるため、鉄道事業者様には引続き、放置自転車撲滅活動にご協力いただきたい。

○関委員：

- ・ネットワーク計画の整備にあたって、今後ネットワークを強化する上で重点的に整備していく計画等があれば教えてほしい。P.43 のように地域間移動の補完をしていきたいということであれば、協力しながらの整備になると考える。ネットワーク計画の整備内容、整備スケジュールを教えてほしい。

○事務局：

- ・ネットワーク計画のP.5に「走行環境のモデル地区」として手を挙げたところ、実現ができなかった。自転車に関する取組を始めたのはこの頃である。走行環境の整備指針を作成し、段階的に整備を進めていくことを定めている。警視庁では所轄の各駅周辺や環七でナビマークを整備している。まずはナビマークを整備する流れがあったため、その周辺の歩行者・自転車の安全性を確保することを目標にやってきており、令和10年までに完了するように進めている。
- ・各駅を結ぶネットワーク路線整備の他、維持工事も合わせて実施していきたい。整備形態が年次によって異なるため、自転車道のようなものを個人的には整備できれば良いと考えているが、財政的にもできるところから整備していく。
- ・本来、自転車は裏通りを通行する方が多いため、ナビラインのみではなく、注意書きや看板の設置も検討していきたい。モデル整備区間と合わせて、きちんと対応していきたい。

○真鍋委員：

- ・日常的に自転車利用が足立区では多い。都内でも鉄道やバス路線が充実している状況である。主たる移動手段として、本計画をさらなる発展に向けて進めていきたい。

以上